

# 情報生産者が育つ学校—「情報生産プロジェクト」の可能性—

宮崎大学教育学部附属中学校 教諭 鬼塚 拓

## 1 問題 — 「消費」から「生産」へ

新聞を活用した学習をきっかけとして、子どもたちが「情報生産者」になっていくことができるようにしたい。そして、「情報生産者」が育つ学校をつくっていききたい。これが本校におけるNIEの起点である。学校としてNIEに取り組もうとするとき、「子どもたちにどうやって新聞を読ませればよいか」という論点がすぐに立ち上がる。子どもたちに「新聞を読ませる指導（方法）」が工夫され、「各教科等の授業における新聞活用」が実践され、子どもたちが「新聞を読んでいる姿」がクローズアップされる。しかしながら、ここで注意しなければならないのは、「子どもたちに新聞を読ませること」が目的化していくことである。「新聞を読むこと」が目的化されれば、「新聞を読んだ、その先にあるはずもの」が見えなくなる。「方法の目的化」が“Activity Trap”と訳されるように、それは「罠」である。「罠」は回避されなければならない。その回避のための方法として、言い換えれば、新聞を活用した学習を手段として、私たちが目指したのが「情報生産者が育つ学校」である。

「情報生産者」とは、日々の生活の中で自分が感じたことや考えたこと（＝新しい情報）を、自分の言葉で書き記していく者のことであり、自分が書き記してきた多種多様な情報を組み合わせながら、さらに新しい情報をつくりだしていく者のことである。他者の言ったことや書いたことを尊重しつつ、自分自身の手によって新たな情報をつくりだしていくことによってはじめて、子どもたちは自分の人生を自分で生きていくことができるようになる。自分のことを、自分の言葉で、表現していくことができるようになる。新聞紙面に載っているのは、新聞の作り手・書き手が生産した情報である。新聞を読むだけの「情報消費者」ととどまってしまうのではなく、新聞を活用した学習を方法として、子どもたちが「情報生産者」になっていくことができるようにしたい。そして、私たちの学校を「情報生産者が育つ学校」にしたい。NIEの実践が私たちの学校にもたらしたのは、「情報生産」という視点である。

## 2 方法 — 「記憶」から「記録」へ

情報生産者になっていくことができるようになるための方法として「情報生産プロジェクト」を始動させた。このプロジェクトの概要は以下の通りである。

- (1) 右の写真のように、「情報カード（400枚）」と「カードボックス」を用意する。「情報カード」は名刺サイズのものを用意し、「カードボックス」の中に保管する。
- (2) オリエンテーションを行い、「情報生産プロジェクト」の目的と方法を説明する。オリエンテーションの資料も「カード」化し、「カードボックス」に保管していく。



「情報カード」と「カードボックス」

(3) 生活の様々な場面でふと感じたことやじっくり考えたことなどを情報カードに書き記していく。子どもたちが自分で書くこともあれば、教師から子どもたちに対して、「それじゃあカードを出してください。書いてみましょう」と声をかけることもある。

(4) 3か月に1回のペースで、自分が書き記してきたカードを繰り返し、読み直すことを通して、「自分がどのような情報を生産してきたのか」を振り返るとともに、「自分が書いたカードを読み直したことで感じたことや考えたこと」を新たな情報として増やしていく活動を行う。子どもたちは3か月間の情報生産プロジェクトをもとに、「3か月間の私の成長」をレポートに書く。このレポートは「キャリア・パスポート」に綴じられていく。

情報生産プロジェクトを始動させることによって、子どもたちが生産する情報は「記憶」から「記録」へと変化していくことになる。すべての情報を頭の中で記憶しておくことはできない。それゆえ、私たちは「頭の外側」に記録媒体を持つことを必要とする。その際、記録媒体は規格化されていることが望ましい。同じサイズで、同じ質感であることが望ましい。規格化されていることで、情報を生産することはもちろん、生産した情報同士を多種多様に結び付けていこうとするときの操作性も格段に向上するからである。

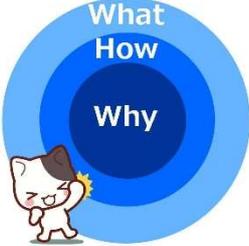
### 3 省察 —— 「特設」から「日常」へ

1年間、情報生産プロジェクトに取り組んだ子どもたちは、次のような振り返りをしている。今年度の「情報生産プロジェクト」は「特設」されたものである。しかしながら、1年間を通して情報生産を続けたことによって、子どもたちはその意義や自分に最適な方法を見出すことができたのではないだろうか。来年度以降、子どもたちの「日常」の中に情報生産プロジェクトが埋め込まれていくことを期待したい。

- 最初は、思ったことだけを書いているだけだったが、今に近づくにつれて、カードの内容が濃くなっているのがとても印象に残りました。カード1枚でも自分を表すことができているよなと思いました。
- 自分の考えを実際に書くことで、頭の中で整理され、書かなければ気づかないようなことまで考えられるようになった。
- 情報カードは自分の学びを整理するためのものだと思う。情報カードを書くことで、あとから見返したときに、思い出しやすくなってよかったと思う。また、今まで自分がどんなことを学んだのかも思い出せて、とてもよかったと思う。
- 私にとって「情報生産プロジェクト」とは、「1つしかない答え」に違和感（あるいは居心地悪さ）をおぼえさせてくれるものだ。数学のような「絶対的な答え」は実社会では存在しない。「完璧」は存在しないし、通用しない。たくさんの答えがあって、そのどれもが正解であり、間違いである。そのことに気づかせてくれて、生き方・見方を変えてくれたものが「情報生産プロジェクト」であると思う。

#### 参考文献

- 梅棹忠夫（1969）『知的生産の技術』岩波書店
- 上野千鶴子（2018）『情報生産者になる』筑摩書房
- ズンク・アーレンス（2021）『TAKE NOTES!』日経BP

<p style="text-align: right;">001</p> <h2 style="text-align: center;">ゴールデンサークル理論</h2>  <p>プロジェクトをつくったり、進めたりしたいときには……</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p>「なぜやるのか (Why)」→「どうやってやるのか (How)」→「なにをするのか (What)」の順番で考えてみよう。「Why」から始めることで、プロジェクトの本質を見失うことなく、まっすぐに進むことができるようになるよ。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>	<p style="text-align: right;">006</p> <p>大切なのは、カードを書く習慣を身につけることです。そのために「1日3枚のカードを書くこと」を基本ルールとします。この基本ルールは、情報生産をするための刺激になります。書こうとするから考えようとしてします。朝の会や帰りの会、授業などをフル活用しましょう。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>
<p style="text-align: right;">002</p> <p>日々の生活のなかで「自分が生産した情報」をカードに書き込んでいきます。ここで「自分が生産した情報」とは、自分自身が「感じたこと」「考えたこと」「発見したこと」「感動したこと」「疑問をもったこと」などです。「自分が生産した情報」をすべてカード化します。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>	<p style="text-align: right;">007</p> <p>カードは忘れるために書きます。すべての情報を頭の中で「記憶」しておくことはできません。自分が生産した大切な情報をカードに書くことで、「記憶」から「記録」へと変換することができるようになります。カードに書いたことは忘れましょう。情報の生産に向かいましょう。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>
<p style="text-align: right;">003</p> <p>カードを400枚、カードを入れるボックスを1箱、配ります。いつでも記録できるように、カードは持ち歩きます。ポケットに入れたり、筆箱に入れたりしてみてください。ボックスはロッカーや机の中で保管します。書き込んだカードはそのつどボックスに投げ込みます。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>	<p style="text-align: right;">008</p> <p>カードボックスのなかには、いろんな場面で自分が生産した情報が投げ込まれています。カードがたまってくると、カードとカードのあいだにつながりが見えてくる場合があります。このようなカード間のつながりを見出すことを「情報のイノベーション(新結合)」と呼びます。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>
<p style="text-align: right;">004</p> <p>3か月に1回を目安に、ボックスに投げ込んだカードをふりかえり、整理し、そこから新たな情報を生産する時間をとります。ここで生産される新たな情報は、「3か月間の自分の変容を表現したもの」となっているはずでです。この活動を1年間を通じて行います。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>	<p style="text-align: right;">009</p> <p>情報のイノベーション(新結合)が起こせるということは、いろんな場面での学びをつなげて物事を考えることができるようになるということでもあります。各教科の授業、道徳、学活、生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間、部活動……いろんな学びが結びつきます。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>
<p style="text-align: right;">005</p> <p>カードの書き方にはコツがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① カードは表面だけを使います。</li> <li>② 1枚のカードにはひとつのことを書きます。</li> <li>③ カードには「文」で書きます。他の人が読んでわかるように書きます。</li> <li>④ カードはケチらずに使います。</li> </ol> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>	<p style="text-align: right;">010</p> <p>私たちが楽しく(プレイフルに)生きていくためには、いろんな教科の、そして、いろんな場面での学びを自分でつなぎあわせ、まとめあげていくことが必要です。つなぎあわせかた、まとめあげかたは、人それぞれです。それぞれ、自分のプレイフルな人生をつくっていきます。</p> <p style="text-align: center;">2022.4.15 情報生産プロジェクト@探究オリエンテーション</p>



### これがあたしのよりすぐり!

「情報カードボックス」の中に投げ込んだカードを繰りながら、この3か月での「選りすぐりの3枚」を選んでみましょう。



### よりすぐりからみえるもの!

カードを繰りながら考えたこと、「選りすぐりの3枚」を選ぶときに考えたことを、言葉にしてみましょう。

選りすぐり1枚目

この3か月の「わたしの成長」とは?

04

2023.2.15 きみとぼくがつくるもの—いっしょにみらいをいきていくためのけいかく4

選りすぐり2枚目

これからの自分に期待することはなんだろう?

05

2023.2.15 きみとぼくがつくるもの—いっしょにみらいをいきていくためのけいかく4

選りすぐり3枚目

自己成長レポートを書き終えて、今、感じていることは?

06

2023.2.15 きみとぼくがつくるもの—いっしょにみらいをいきていくためのけいかく4

わたしが「この3枚」を選んだのはどうしてだろう?

03

2023.2.15 きみとぼくがつくるもの—いっしょにみらいをいきていくためのけいかく4

1年間、情報生産プロジェクトを实践してみて考えたことは?

07

2023.2.15 きみとぼくがつくるもの—いっしょにみらいをいきていくためのけいかく4

情報生産プロジェクトをもとにした「3か月間の私の成長」をまとめるレポートの形式